

発達障害教育情報センターにおける web サイトのコンテンツ 「研修講義」の紹介

神山 努・江田良市・玉木宗久・半田 健・笹森洋樹
(情報・支援部)

要旨：発達障害の可能性のある児童生徒は、小・中学校の通常の学級において6.5%在籍しているという調査結果が報告されている。また、すべての教員の発達障害に関する専門性向上が求められている。発達障害教育情報センターは発達障害のある子どもへの教育の推進・充実に向けて、広く国民への発達障害の理解啓発や情報提供等を目的としている。本稿では、発達障害教育情報センターのコンテンツ「研修講義」について紹介するとともに、コンテンツ「研修講義」の一層の充実を目指すうえでの課題や方向性について考察した。現在のコンテンツ「研修講義」には、「研修講義について」「研修講義の視聴方法」「研修講義一覧」「研修講義の活用について」の4カテゴリーが設けられており、研修講義は4つのカテゴリーで21の講義がある。また、研修講義の活用例は2つのサンプルと、4つの活用事例が紹介されている。今後の課題や方向性については、高等学校段階を中心に研修講義コンテンツをさらに充実させること、研修講義の活用例をさらに充実させることを指摘した。

見出し語：発達障害、発達障害教育情報センター、研修講義、専門性向上、高等学校段階

I. はじめに

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課(2012)は、発達障害の可能性のある児童生徒が、小・中学校の通常の学級において、6.5%在籍しているという調査結果を示した。また、教育再生実行会議(2016)の第九次提言「全ての子供たちの能力を伸ばし可能性を開花させる教育へ」では、教員養成段階での発達障害等の学修の必修化など、すべての教員の、発達障害など障害のある児童生徒に対する教育に関する専門性向上について提言がなされている。さらに同提言では、国立特別支援教育総合研究所の機能強化において、発達障害等に関する教師向けインターネット講義の充実について触れている。

発達障害教育情報センターは、発達障害のある子どもの教育の推進・充実に向けて、発達障害にかかわる教員及び保護者をはじめとする関係者への支援を図り、さらに広く国民の理解を得るために、Webサイト(<http://icedd.nise.go.jp/>)等による情報提供や理解啓発、調査研究活動を行うことを目的としている(渥美・梅田・佐藤・涌井・岡本・柳澤, 2015)。

本センターは、発達障害のある本人や保護者、教育関係者、大学、学会、NPO、関連団体などと連携し、「指導・支援」「研究講義」「教材・支援機器」「研究紹介」「施策法令」「教育相談」「イベント情報」の、7つの項目を中心に情報を収集し、Webサイトを介して発信している。例えば「指導・支援」では、「学校における指導・支援」や「発達障害のある子どもの合理的配慮」など、発達障害のある子どもの理解や指導・支援に関する情報をこれまで配信してきている(岡本・神山・涌井・江田・笹森, 2016)。

上記のコンテンツの中でも「研修講義」は、教育再生実行会議の第九次提言でも触れられている、発達障害に関するインターネット講義に関するコンテンツである。教員の発達障害に関する専門性向上のために、「研修講義」の一層の充実は特に求められているといえる。

そこで本稿では、コンテンツ「研修講義」の内容について紹介するとともに、今後、「研修講義」をさらに充実させるための課題や方向性について考察する。

表1 研修講義コンテンツの一覧（平成28年12月1日現在）

カテゴリー	講義名
概論	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょっと気になるが出発点 ・教室の中の気になる子どもたち
発達障害のある子どもの理解と支援	<ul style="list-style-type: none"> ・注意を集中し続けることが難しい子 ・音読が苦手な子 ・書くことが苦手な子 ・乱暴な言葉や態度を示す子 ・授業中や座っているべきときに席を離れてしまう子 ・状況に関係のない発言をする子どもの理解と支援 ・幼児期の発達障害 ・発達障害のある子どもへの指導・支援体制（1） ・発達障害のある子どもへの指導・支援体制（2） ・発達障害のある子どもの家族への支援 ・二次障害の理解と対応 ・やりとりの苦手な子どもへの支援 ・どの子も伸びるユニバーサルデザインな授業・集団作り（前編） ・どの子も伸びるユニバーサルデザインな授業・集団作り（後編） ・発達障害のある児童生徒のための教材・支援機器の活用
保護者への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・先生と保護者の関係づくり ・幼児を養育している保護者との関わり
医学	<ul style="list-style-type: none"> ・自閉症の医学 ・ADHDとは何か？

II. コンテンツ「研修講義」の紹介

コンテンツ「研修講義」（http://icedd.nise.go.jp/index.php?action=pages_view_main&page_id=18）は、発達障害のある子どもの教育に関わる教員を主な対象として、発達障害のある子どもの教育的支援に必要な基礎的な内容について、個人や職場での研修に活用できるような講義を動画で配信している。「研修講義」のWebページ内に、「研修講義について」「研修講義の視聴方法」「研修講義一覧」「研修講義の活用について」の4つのカテゴリーを設けている。

研修講義はAdobe社 Adobe Presenter を介して配信しており（写真1参照）、本研究所内外の専門家が講師を担い、20分以下の比較的短時間で構成されている。平成28年12月1日現在の研修講義コンテンツの一覧を、表1に示した。

以下では、「研修講義一覧」からいくつかの研修講義の概要について、「研修講義の活用について」から研修講義の活用例を紹介する。



写真1 研修講義の画面例

表2 研修講義の活用事例

実施場面	概要
長野市立山王小学校特別支援教育研修会での活用	・校内研修で発達障害教育情報センターWeb サイトの紹介と研修講義「ちょっと気になるが出发点～発達障害のある子どもたち」を用いた。
静岡県小笠地区校長会特別支援学級設置校部研修会での活用	・静岡県小笠地区小・中学校51校の校長会の特別支援学級設置校部研修会において、講話「教育・医療・福祉の連携から見えたもの」の中で、研修講義「保護者と教員の関係づくり」を用いた。
札幌市立大通高等学校障がいのある子の生活を考える会「DORI サポート倶楽部」勉強会での活用	・保護者と教員の勉強会において、研修講義「教室の中の気になる子どもたち」を用いた。
宮崎県西諸県郡野尻町(現小林市)特別支援教育コーディネーター連絡会議研修会での活用	・野尻町特別支援教育コーディネーター連絡会議研修会にて、研修講義「書くことが苦手な子」を用いた。

1. 研修講義一覧

研修講義は表1に示したように、「概論」、「発達障害のある子どもの理解と支援」、「保護者への支援」、「医学」に分類している。

「概論」は2つの講義が含まれており、例えば「ちょっと気になるが出发点」は15分の講義で、学び方に特徴のある発達障害のある子どもの特性について説明している。

「発達障害のある子どもの理解と支援」は15の講義が含まれており、音読や書くことといった学習面、注意集中や乱暴な言動といった行動面など様々な教育的ニーズに関する講義、そのような教育的ニーズに対応するための、ユニバーサルデザイン化された授業・集団作りや教材・支援機器の活用といった、指導を中心とした講義、幼児期、指導・支援体制、二次障害など幅広い講義コンテンツが含まれている。例えば「注意を集中し続けることが難しい子」は13分の講義で、注意を集中し続けることが難しい子どもをつまづきの背景や、具体的な支援の方法について説明している。

「保護者への支援」は2つの講義が含まれており、例えば「先生と保護者の関係づくり」は16分の講義で、先生が保護者と共に子どもの支援を考える際、大切にしたい関係づくりのポイントについて説明している。

「医学」は2つの講義が含まれており、例えば「自

閉症の医学」は18分の講義で、自閉症、アスペルガー障害を含む広汎性発達障害の理解と対応について、教育と医療との連携をどのように図ればよいかについて説明している。

2. 研修講義の活用について

この項では、研修講義を活用して想定される校内研修のモデルと、実際の研修講義の活用事例について紹介している。モデルとなる研修プランは、サンプルAとサンプルBの2例を紹介している。

サンプルAは、研修講義の「ちょっと気になるが出发点～発達障害のある子どもたち～」と「教室の中の気になる子どもたち～発達障害の特性の理解～」を題材に、小・中学校の教員を対象とした、1時間程度の校内研修を想定している。研修の流れは、最初に「ちょっと気になるが出发点～発達障害のある子どもたち～」を視聴し、それを受けて参加者で意見交換を行い、最後に「教室の中の気になる子どもたち～発達障害の特性の理解～」で、障害特性やその教育的対応の配慮点を理解する、という構成を提案している。

サンプルBは、研修講義の「注意を集中し続けることが難しい子」を題材に、小・中学校の教員を対象とした、70分程度の校内研修を想定している。研修の流れは、最初に、校内で特別な支援を必要としており、なおかつ行動上の問題を抱えている子ども

について触れ、そのような子ども達にどのようにかかわれば良いのかを提起し、次に、研修講義「注意を集中し続ける子どもが難しい子」を視聴し、それを受けて、参加者で意見交換を行い、最後に支援を必要としている子どもへの具体的な教育的対応の配慮点を協議するという構成を提案している。

また、意見交換のプロセスにおいて、参加者が発言しやすい雰囲気と環境を作るために参加者を少人数のグループに分ける、意見交換を参加者全体で共有する、といった工夫を例示している。

「研修講義の活用事例」では、長野市立山王小学校特別支援教育研修会での活用、静岡県小笠地区校長会特別支援学級設置校部研修会での活用、札幌市立大通高等学校障がいのある子の生活を考える会「DORI サポート倶楽部」勉強会での活用、宮崎県西諸県郡野尻町（現小林市）特別支援教育コーディネーター連絡会議研修会での活用として、野尻町特別支援教育コーディネーター連絡会議研修会にて、研修講義「書くことが苦手な子」を用いた事例を紹介している（表2参照）。なお、宮崎県西諸県郡野尻町特別支援教育コーディネーター連絡会議研修会では、Web カメラを介して、研修参加者と当センタースタッフとの質疑応答を行った。

Ⅲ. 今後の課題と方向性

本稿では、本センターの Web コンテンツの「研修講義」について紹介した。以下では、これまでに紹介した「研修講義」の現状をふまえて、「研修講義」をさらに充実させるための課題点や方向性について考察する。

1. 研修講義コンテンツのさらなる充実：高等学校段階を中心に

発達障害のある子どもたちは、学習面や行動面において様々な教育的ニーズを示す可能性がある。そのような教育的ニーズのある子どもたちに対して、幼・小・中・高等学校の様々な教育活動において、必要な配慮と適切な支援を提供する必要がある。また、発達障害のある子どもたちが環境との不適応等から、二次的な問題を示す場合がある。二次的な問

題に対応するためには、教育・福祉・医療等の関係機関や、保護者や家族との連携が必要となる。そして、二次的な問題を予防し、自立と社会参加を目指すために、発達障害の早期発見・早期支援や、早期から成人期までの一貫した支援が重要となる。このような発達障害のある子どもたちの様々な教育的ニーズに関して、研修講義コンテンツをさらに充実していくことは不可欠といえる。

研修講義コンテンツの充実に関して、特に高等学校段階についてのコンテンツを充実させる必要がある。平成30年度より、高等学校における通級による指導が制度化されることが目指されており（高等学校における特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議、2016）、そのためのモデル事業の成果も報告されている（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課、2014）。また、本研究所（2014）では高等学校における発達障害等の特別な支援を必要とする生徒への指導・支援に関して、現状と課題についての調査研究や、実践研究の結果について報告を行っている。今後、このような事業や研究の成果をふまえて、高等学校段階における発達障害のある生徒に関する研修講義コンテンツを充実させていくことは特に求められているといえる。

2. 研修講義コンテンツの活用例のさらなる充実

上述の通り、発達障害に関する専門性向上は、すべての教員に求められてきている。そのため、あらゆる教育の場において発達障害に関する研修を充実させるために、本研修講義コンテンツを充実させることと併せて、研修講義コンテンツの活用例も充実させる必要がある。充実のためにはまず、幼・小・中・高等学校それぞれの教員を対象とした研修、担任や特別支援教育コーディネーターなど参加者の立場に応じた研修、校内研修と地域の教育委員会が主催した研修など実施場面に応じた研修、といった活用例の種類を増やすことが考えられる。また、初任者教員を対象とした場合と、ある程度の経験年数を重ねた教員を対象とした場合など、参加対象者に応じて活用方法が変わってくるのが想定される。その他に、集団参加による研修のほか、個人による自主研修、Web カメラを介して遠隔地の講師がパッ

クアップすることを併用した研修など、研修の実施形式にもいくつかの例が考えられる。今後は、研修の対象、実施場面、実施形式などに応じて様々な研修活用例を増やすことが求められる。

のコンテンツ「指導・支援」の紹介。国立特別支援教育総合研究所ジャーナル, 5, 90-95.

引用文献

渥美義賢・梅田真理・佐藤肇・涌井恵・岡本邦広・柳澤亜希子(2015). 発達障害教育に関する情報の普及. 国立特別支援教育総合研究所ジャーナル, 4, 56-60.

国立特別支援教育総合研究所(2014). 専門研究 B 「高等学校における発達障害等の特別な支援を必要とする生徒への指導・支援に関する研究—授業を中心とした指導・支援の在り方—」(平成24~25年度)研究成果報告書. <http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/9719/seika4.pdf> (アクセス日, 2016-12-01)

高等学校における特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議(2016). 高等学校における通級による指導の制度化及び充実方策について(高等学校における特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議 報告). http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/28/03/_icsFiles/afieldfile/2016/03/31/1369191_02_1_1.pdf (アクセス日, 2016-12-01)

教育再生実行会議(2016). 全ての子供たちの能力を伸ばし可能性を開花させる教育へ(第九次提言). http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouikusaiei/pdf/dai9_2.pdf (アクセス日, 2016-12-01)

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課(2012). 通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について. http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/_icsFiles/afieldfile/2012/12/10/1328729_01.pdf (アクセス日, 2016-12-01)

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課(2014). 自立・社会参加に向けた高等学校段階における特別支援教育充実事業. http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/006/h26/1350403.htm (アクセス日, 2016-12-01)

岡本邦広・神山努・涌井恵・江田良市・笹森洋樹(2016). 発達障害教育情報センターにおける Web サイト